仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」第45号　令和4年10月発行

はたらくネット

仙台市では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、平成21年度から、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者を「障害者雇用貢献事業者」として表彰を行うとともに、その取り組み事例を紹介しております。令和3年度においては、株式会社サンマリ、株式会社仙台銀行、株式会社つばめマネジメント、株式会社デジタルハーツプラス仙台オフィス、東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社及び楽天ソシオビジネス株式会社エリア事業部仙台エリアチームの6社が表彰を受けました。

先号から順次、各社の取り組みを紹介しておりますが、今回はその中から、東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社と株式会社サンマリの2社の取り組みをご紹介いたします。

●東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社

〔仙台市青葉区〕

東北電力
フレンドリー・パートナーズ

ロゴマークは、宮城県内の特別支援学校の生徒さん（当時）の作品です。“F”と“P”の文字をデザインしたものに、ハート形の葉を組み合わせています。芽生えから始まる成長をイメージしています。

設　　立： 平成30年7月2日
代 表 者： 取締役社長　砂子田 智
事業内容： オフィスサポート業務
雇用状況： 知的障害者を中心に30名
（令和4年9月現在）

東北6県、新潟県などで電力の販売や発電の事業を行っている東北電力株式会社の特例子会社です。東北電力企業グループのグループスローガンは、「より、そう、ちから。」。お客さまの要望に「より沿う」サービスの提供や、地域の成長や発展に「寄り添う」取り組みを進めています。

現在、同社では障害のある社員30名が、東北電力株式会社と送配電を担っている東北電力ネットワーク株式会社のオフィスサポート（庶務関係を中心とした事務業務）の仕事に従事しています。

障害のある社員は、「一般職」と呼ばれています。担当している仕事は、社内便の仕分けや発送、各種データの入力、書類のファイリング、名刺の作成、ダイレクトメールやチラシの封入、古紙の回収など、多岐に渡ります。

指導に当たっているのは、「トレーナー」と呼ばれる6名の社員です。「一般職」がスムーズに働けるように、様々な工夫をしています。そのひとつが、資料を三つ折りにするときに使用する器具です。クリアファイルの一部を切り取って作成しています。その器具を使うと、きれいな三つ折りができます。

また、「一般職」が、会議や講演会の会場設営の作業をするときにも、「トレーナー」のオリジナルの器具が活躍します。指定された間隔で机を配置する必要があるときには、手作りの物差しを使用します。それを使うと、机を等間隔に並べることができます。記者会見や研修などのために、机を斜めに配置する必要があるときには、手作りの分度器を用います。それを使うことで、一定の角度できちんと机を配置することができます。

さらに、「トレーナー」はその他の業務でも、作業工程を細分化したり、臨機応変な対応が必要な作業を見直して一定のパターンの仕事にしたりするなどして、「一般職」が仕事を

「トレーナー」の手作りの物差しを使って、机と机の間隔を測っているところ

レタスの水耕栽培

しやすいように工夫しています。

同社は、新しい業務にも取り組んでいます。そのひとつが、東北電力株式会社の本店ビル内に昨年2月に設置された、レタスの水耕栽培装置の運営の協力です。東北電力株式会社が推進する「スマート社会実現事業」の一環として、土を使わず、LED（発光ダイオード）の光と養液でレタスを栽培します。「一般職」が、種の植え付けから収穫までの作業を担当しています。収穫したレタスは、東北電力株式会社のお客さまなどに配ったり、社員食堂で用いたりしています。

同社は職場実習の受け入れにも力を入れています。これまで最も多かった年度には、宮城県内の特別支援学校の生徒さんや就労移行支援事業所に通所中の障害のある方18名が同社で実習をしました。オフィスサポート事業部リーダーの相原未來子さんは、「実習生は、『働く』ということを、身をもって感じることができます。『一般職』にとっては、実習生に仕事を教え、自分の体験を伝えることで、自信を持ち、成長する機会になっています」とお話をされます。

同社は、「一般職」に、丁寧な仕事を行い、納期を守ることで、周囲からの信用や信頼を積み上げてほしいと考えています。「一般職」が、仕事にやりがいを感じ、安定して働き続けられるように、今後も職場環境を整え、それぞれの強みを引き出すような業務の割り振りをしていくとのことです。

最後に、オフィスサポート事業部副部長の瀬賀武史さんは、「『一般職』の丁寧で確実な仕事ぶりは、様々な部署から高く評価され、良い効果をもたらしています。当社としては、今後も『一般職』が仕事を通じて社会に参画し、経済的にも自立し、ひとりの社会人として地域社会で暮らしていけるようにサポートしていきたいです」とお話をされていました。

平成31年3月に入社した方にお話を聞きました。

勇気を出して　　吉田（よしだ） 有希（ゆき）さん

データ入力

当時、通っていた就労移行支援事業所の支援員さんの紹介で、就職しました。使用済の文書の仕分けをした後、オフィス用の製紙機を操作して再生紙を作り、カレンダーやメモ帳といったノベルティーグッズを製作する仕事をしています。紙の資料をスキャンしてPDFを作成したり、廃棄する文書をシュレッダーにかけたりする仕事もしています。

私は他の人に話しかけるのが苦手です。でも、分からないことがあるときに他の人に確かめずに仕事を進めると、間違いにつながりやすくなります。だから、悩んだり、困ったりしたときは、「トレーナー」さんや同僚に聞くように心掛けています。

達成感を感じるのは、任せられた仕事を最後までやり遂げることができたときです。PDFを作成する仕事で、依頼者に「ありがとう」という感謝の言葉を掛けられると、「やって良かった」と思います。

働くうえでは、「ホウレンソウ」（報告、連絡、相談）が大事だとも感じます。それができると仕事はしやすくなりますし、成果も出て、自分の達成感につながります。

これからの目標は、それぞれの仕事の目的や流れをよく理解して作業に取り組むことです。小学校の頃から国語が得意で、漢字の勉強を続けています。たくさん漢字を覚えて日本漢字能力検定2級を取得し、何かの形で会社に貢献できたらと思っています。プライベートでは、いつかグループホームに入り、一人暮らしをしてみたいです。

私は働くための最初の一歩がなかなか踏み出せず、就職に失敗した経験もあります。働きたいと思っている障害のある方には、勇気を出して就職活動をすることをお勧めしたいです。

平成31年4月に入社した3名の方にもお話を聞きました。

左から髙橋さん、佐藤さん、西山さん

「好きなこと、やりたいこと」を目標に　髙橋（たかはし） 朋起（ともき）さん

得意なパソコンスキルを活かして長く働けるのではと思い、就職しました。消耗品をいろいろな部署に届けたり、使用済の文書を集めたりしています。

難しいのは、電話をかけることです。言葉遣いに気をつけ、分かりやすく話すことを心掛けています。

大変なのは、使用済の文書を集めるときなどに重い荷物を運ぶことです。なるべく誰かと二人で作業するようにしています。

同僚とのおしゃべりが一番の楽しみです。休みの日に、水族館などに一緒に出掛けることもあります。趣味はドライブです。貯金して、自分の車を買うのが目標です。もう1つの趣味である水泳も続けたいです。

好きなこと、やりたいことを目標にすると、働き続けられるのではないかと思います。

「いつかこうしたい」と思って努力を　佐藤（さとう） 唯吹（いぶき）さん

パソコン作業など仕事の内容が自分に合っていると思い、就職しました。社内便の仕分けやデータ入力を担当しています。

新しく入った方に作業について教えることがあります。具体的に、分かりやすく教えるのが難しいです。

大きなミスなく仕事を終えたときは嬉しいです。依頼者に「助かるよ」と言ってもらえるのも嬉しいです。同僚と趣味の話で盛り上がるのも楽しいです。

目標は、これからも一生懸命に働くことです。

常に全力だと、苦しくなることもあります。少し疲れたなと思ったときには、「ちょっと一息」つくことも選択肢のひとつだと感じています。大変なこともありますが、「いつかこうしたい」と思って努力すると、乗り越えられます。

「得意なこと」を仕事に活かせる喜び　西山（にしやま） 巧真（たくま）さん

特別支援学校時代にパソコン作業がメインの作業班に所属していました。作業発表会でたまたま、今の会社の方にお会いして実習をすることになり、就職につながりました。

最近始めたDVDの貸出作業は件数が多いと、処理に時間がかかります。「大変だな」と思うときは、仲間に相談するようにしています。

嬉しいのは、得意なことを仕事に活かせることです。会社で製作しているノベルティーグッズのひとつにカレンダーがあります。今年のカレンダーの4月のたんぽぽ、8月の冷麺、9月の竜胆（りんどう）は僕の絵です。

障害のある働きたい方には、実習をしてみることをお勧めします。得意なことや苦手なことが分かり、「自分の道」を見つけることができると思います。

●株式会社サンマリ〔仙台市宮城野区〕

株式会社サンマリは、宮城県内でスーパーマーケット21店舗を経営している会社です。21店舗のうち、14店舗が仙台市内にあります。モットーは、「お客様のために最善を尽くすこと」。東日本大震災後、被災した一部の店舗を除き、1日も休むことなく営業を続けるなど、地元のニーズに応え、地域の方々に愛される経営を行っています。

同社には現在、14名の障害のある従業員がいます。そのうち12名はそれぞれ店舗で野菜の袋詰めや商品を並べる作業を担当しており、その他の2名は本社で集計作業などパソコンを使った仕事に従事しています。障害のある方々の職場は、自宅の近くになるように配慮しています。転勤もありません。通勤が負担やストレスのもとにならないように、また、慣れた環境で安心して働けるようにという考え

サンマリ

設　　立： 昭和 63 年 11 月 2 日
代 表 者： 代表取締役　東海林 誠
事業内容： スーパーマーケットの経営
雇用状況： 身体障害者 7 名
知的障害者 6 名
精神障害者 1 名
（令和 4 年 9 月現在）

方によります。

障害のある従業員の支援に当たるのは、多くの場合、ベテランのパート従業員です。優しく声を掛けながら一緒に作業をしたり、商品の並べ方を手取り足取り教えたりします。

会社による通勤面の配慮、ベテラン従業員による現場での手厚い支援などが、障害のある従業員の長期就労につながり、同社には10年以上働いている障害のある従業員が多くいます。

同社は、障害者雇用には、大きく二つのメリットがあるとしています。

一つ目は、障害のある方々には、集中力がある、与えられた仕事を一生懸命に行うといった良い点が見られ、そうした特性を活かした働きぶりが会社の助けになっていることです。

二つ目は、障害のある従業員に仕事を教えることで、教える側の従業員の知識や能力が向上し、それが会社全体のレベルアップになっていることです。自分の仕事をこなしながら他の人に教えるとなると、通常より多くの労力と努力が要ります。相手の立場に立って分かりやすく教えることも、容易にできることではありません。障害のある従業員に教えることが、教える側の従業員の深い業務理解につながり、日常的に取り組んでいる作業の見直しや改善にもなります。

地域の方々に支えられている面もあります。同社の経営する店舗は、自宅から歩いて買い物に来られる方も多い、地域密着型のスーパーマーケットです。店舗によっては、障害のある従業員が作業中に突然、大きい声で話し始めるようなこともありますが、いつも買い物に来られる方々が事情を理解しているため、苦情が寄せられるようなこともないといいます。

レジ打ち

野菜を並べているところ

同社は、特別支援学校の生徒さんの職場実習も積極的に受け入れています。毎年、宮城県内の特別支援学校2校の生徒さんが2週間、実習を行っています。障害のある従業員への通勤面での配慮と同様に、生徒さんの負担を減らすため、自宅または学校の近くの店舗で実習ができるようにしています。生徒さんたちは、障害のある従業員が担当する業務と同じような作業を体験することで、スーパーマーケットで働くイメージを持つことができます。実習後には、生徒さんからお礼の手紙が届いたり、先生から謝意を伝えられたりします。

総務人事部部長の真崎新太郎さんは、金融機関に20年勤務した経験があります。当時、担当していたある福祉関連の企業の理念や業務内容に深い感銘を受け、何らかの形で支援が必要な方々に関わることができればという気持ちを持つようになったといいます。

真崎さんは、「スーパーマーケットを経営する当社には、決まって行わなければならない作業が多くあり、その中には障害のある方々の仕事としてちょうど良いものもあります。今後も障害のある従業員の強みを活かす形で、障害者雇用という社会的責務を全うしていきたいです。特別支援学校の生徒さんの受け入れなどを通じて、地域社会にも貢献していきたいです」とお話をされていました。

発 行：仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」
（指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）
住 所：仙台市泉区泉中央 2 丁目 1-1　泉区役所東庁舎 5 階
電 話：022-772-5517　　FAX：022-772-5519
Mail：info@sendai-wsc.jp　HP：https://www.sendai-wsc.jp